

平成22年度第5回産業応用部門論文委員会主査会議 議事録（案）

1. 日時 平成22年12月7日（月）13:40～15:05

2. 場所 電気学会事務局内会議室

3. 出席者（敬称略） D1：2名，D2：2名，D3：2名

大石（編集長／長岡技術科学大学），村上（編集長補佐／慶応義塾大学），藤崎（D1主査／豊田工業大学），野口（D1次年度副主査／静岡大学），寺田（D2主査／徳島大学），森本（D2副主査／東海大学），高瀬（D3主査／摂南大学），村井（D3次年度副主査／JR），藤田（編集広報委員／東京工業大学）

欠席：木村（D1副主査／大阪工業大学），亀井（D2次年度副主査／三菱電機），米谷（D3副主査／三菱電機）

4. 提出資料

22-5-0 議事次第（木村）

22-5-1 前回議事録（案）（木村）

22-5-2 電子査読システムの運用状況（村上）

22-5-3-1 「モーションコントロール，計測・センサ応用全般」特集（村上）

22-5-3-2 「多次元センシング技術とその産業応用」特集（寺田）

22-5-4 特集号の論文募集 電気学会論文誌D「産業計測制御全般」特集（村上）

22-5-5 平成23年度 部門事業計画（案）（村上）

22-5-6-1 産業応用部門表彰規定（改定案）（村上）

22-5-6-2 D部門論文賞推薦書（D1，D2，D3）（村上）

22-5-6-3 D部門論文賞候補選定資料の送付につきまして（e-mail）（村上）

22-5-6-4 論文誌D（村上）

22-5-6-5 共通英文誌（村上）

5. 議事

5. 1 前回議事録の確認（資料22-5-1）

・論文委員会の再編案がD部門役員会において了承されたとの報告があった。4月に新編修長に引き継ぐ。

D4，D5の主査，副主査選任については新編修長と相談して決める。

・その他，異議なく承認された。

5. 2 電子査読システムの運用状況（資料 22-5-2）

・11 月度の集計結果について報告があり、D1 は昨年度並み、D2 は昨年より 13 件多い、D3 は若干少ないが平年並みである。英文論文誌の新規投稿はなく、特に D2 が少ない。諸規定も論文委員会再編に伴い改定しなければならない。

5. 3 特集号の状況確認（資料 22-5-3-1, 22-5-3-2, 22-5-4）

・「モーションコントロール、計測・センサ応用全般」特集号は 3 月を予定している。30 件の投稿があり、すでに採録 10 件、返送 6 件となっているので成立する。

・「多次元センシング技術とその産業応用」特集号については、投稿論文数 30 件、採録 18 件、返送 2 件となっている。論文誌発刊時の採録順序は原則受付順であるが、解説風論文の順序は繰り上げることを推奨する。1 月 20 日までに全査読プロセスを完了する。

・「IPEC2010」特集号について、講演論文集に採録された発表論文の著作権は IEEE にあるので、その著作権に抵触しないよう発表論文の書き換えが必要となる。グレーゾーンの発表論文についてはエディタが査読に入ってもらい、4 割新規内容が追加されているか否かの判断において C 判定を出せるような体制をとった。IPEC2010 特集号は 8 月号として発刊される。

・すべての産業計測制御に関連した技術委員会関係の論文を広く集めて大きな研究会を開催する。この研究会に投稿された発表論文から「産業計測制御全般」特集号を構成する。3 月号のニュースレターに会告を掲載する。

・SPC 特集号については従来どおり平成 24 年 1 月号とする。時間的に逼迫しているので SPC 技術委員長に至急対応するよう連絡する。2 月号のニュースレターに会告掲載が間に合うよう 1 月中旬までに会告原稿を用意する。

5. 4 平成 23 年度事業計画（資料 22-5-5）

・新しい論文査読体制（新査読プロセスの試行と D4, D5 の新設）に関する記述を 8 項目に追加する。

5. 5 その他（資料 22-5-6-1, 22-5-6-2, 22-5-6-3, 22-5-6-4, 22-5-6-5）

・部門論文賞について、D1 と D2 からそれぞれ優先順位付きで 2 候補、D3 からは 1 候補を出してもらう。選定基準はグループごとに設定し、次回主査会までに候補を確定する。平成 22 年 1 月号～12 月号の掲載論文（掲載決定を含む）を選定対象とする。

5. 6 次回開催

日時 平成 23 年 2 月 8 日（火）13:30～15:00

場所 電気学会事務局内会議室

以上